

コンゴ(共)月例報告

2017年10月

【ポイント】

- 3日、サス・ンゲソ大統領は、プール県に人道的回廊を創設し、投降したントウミ派民兵(ニンジャ)から武器を買い取る旨発表した。
- 4日、IMFは、9月25日から10月4日に実施した調査の結果、本年7月末時点の公的債務残高は約91.4億米ドル、対GDP比約110%であった旨発表した。
- 23日、ンブル内務・地方分権大臣は、中部アフリカ経済通貨共同体(CEMAC)加盟国の国籍保有者に対して、IC旅券を所有しており、コンゴ(共)の滞在期間が90日以内であれば、渡航査証を免除する旨発表した。

◎特にソースが明記されていない場合は、「Les Dépêches de Brazzaville」, 「ICI BRAZZA」, 仏通信(AFP)及び仏ラジオ国際放送局(RFI)による

1 経済:石油取引に関する隠し債務

(1)IMF調査団によるプレスリリース

4日、IMFは9月25日から10月4日の日程でコンゴ(共)を訪問したIMF調査団によるプレスリリースを発表したところ概要以下のとおり(出典:4日付IMFプレスリリース)。

ア 本年7月末時点の公的債務残高は約91.4億米ドル、対GDP比約110%であった。

イ コンゴ(共)のマクロ経済は過度に不均衡であり、予算調整措置にも関わらず、経済活動自体が政府預金の悪化・削減を助長している。

ウ コンゴ(共)政府は、債務の持続可能性確保にむけた措置を中期的に講ずる旨、IMFの支援の下、ガバナンスに関する調査・診断を行う旨コミットした。

エ コンゴ(共)政府は、石油企業を含む公社の経営改善に関する意志を表明した。

(2)10日付AFPは、ムアンバ首相のインタビューにつき報ずるところ、概要以下のとおり。

ア コンゴ(共)の歳入増加策として、森林、土地セクターの税収入を検討する。国際市場で価格が下落した原油収入は、あくまで「補完的な資金源」とする。

イ ガバナンスが非効率である石油公社(SNPC)、電気公社(SNE)、水道公社(SNDE)等の国営企業についても改革を検討している。

(2)2018年度予算案審議の中断

16日、ンヴバ国民議会議長は、IMFとの協議が終わるまで、上下議会での2018年度予算案にかかる審議を中断する旨発表した。

(3)野党第一党からの提言

17日、野党第一党の「社会民主主義のための全アフリカ連合(UPADS)」は6件の提言を行った。内容は、①プール県情勢の解決による内政の平静化、②厳格な規則による国家の歳入出の調整、③不正対策、④税務管理の強化と罰則の適用、⑤中小企業支援の政策、⑥あらゆる組織による改革プログラム実施へのコミットメント、である。

2 内政:プール県情勢

(1)プール県内での人道的回廊創設構想

3日、サス・ンゲソ大統領は、プール県の賢人代表者及び宗教的指導者との面談を行った後、武器を所有したントウミ派民兵(ニンジャ)の若者が投降できるようプール県に人道的回廊を設置する旨、武装解除後にントウミ派民兵が通常の生活が営めるよう武器を買い取る旨発表した。

(2)ントウミ派の反応

上記(1)後、ントウミ派は、コミュニケを発出し、4点(①プール県からの国軍撤収、②ントウミ牧師らへの逮捕状の取り消し、③全ての政治犯の解放、④国際社会同席のもとでの包括的な対話の実施)を求めた(出典:19日付エコ・ドゥ・コンゴ=ブラザビル)。

(3)国連機関の支援

21日、クアメUNHCFコンゴ(共)事務所長は、プール県キンカラにて、国内NGOカリタス・コンゴに対して毛布、テント、ゴザ、灯油缶、バケツを無償供与した。本供与品は約980世帯に裨益する。

3 治安:アンゴラ国境

20日付エコ・ドゥ・コンゴ=ブラザビルによると、アンゴラ人兵士が、アンゴラの飛び地カビンダから国境を越えて、ニアリ県イル=パンガ村(首都ブラザビル西方350Km)へ侵入し、同村内の墓14基を倒した。右兵士らがアンゴラ軍兵士か、カビンダ解放戦線の兵士かは不明。

人口4万人のカビンダにはアンゴラ兵4千人が配置されている。2013年10月にはアンゴラ兵がキモンゴに侵入しコンゴ(共)国軍兵士47名が人質にされる事件が発生した。

(出典:20日付エコ・ドゥ・コンゴ=ブラザビル)。

4 社会:医療機関のストライキ

ブラザビル大学病院の職員は、本年8月に実施した10日間のストライキに続き、10月6日、無制限のストライキを再開した。右労働組合は、3か月分の給与未払いにつき抗議している。17日、アイエッサ副首相(公務・国家改革・社会保障担当)は同大学病院の労働組合と意見交換を行った。

5 外交

(1)二国間

ア 中国:中国海軍の病院船「和平方舟号」及び保健セクター支援

(ア)10日から17日の日程で、中国海軍の病院船「和平方舟号」がポワント・ノワール自治港へ寄港し、心臓科、歯科、婦人科、眼科、小児科、内科等2000件の無料医療診断を実施した。12日、艦隊副長官はサス・ンゲソ大統領を表敬訪問した。右病院船は全長178メートル、横幅24メートル、第三次医療施設に相当する病床数(300床)、手術室(8室)、緊急輸送用ヘリコプター1機、機材2000個を搭載する。乗組員200名、医療従事者600名。

(イ)11日、中国海軍の病院船「和平方舟号」船上にて、中国の独立記念式典が開催され、ファン中国大使、ムワンバ首相が参加した。

(ウ)17日、ファン中国大使は、ポワント・ノワール市内ロアンジリ総合病院に対して医療品及び食料品を贈与した。

(エ)20日、経済特区設置のために中国(北京、天津、上海、深セン、蘇州)で3か月間の研修を終えた、関税、税務、商業、産業関連の幹部公務員約30名がジルベール・モコキ経済特区大臣を表敬訪問した。

イ フランス:仏議員団によるブラザビル訪問

25日、ドビルパン仏元外相を代表とする議員団がブラザビルを訪問し、ムアンバ首相、ガコソ外務・協

カ・在外コンゴ人大臣に表敬訪問し、コンゴ(共)仏二国間関係、コンゴ(共)EU関係、コンゴ(共)IMF間関係、域内平和におけるコンゴ(共)の役割等につき協議し、引き続き仏企業はコンゴ(共)を支援する旨約束した。

(1) 多国間

ア 第7回大湖地域国際会議(ICGLR)首脳会合

19日、サス・ンゲソ大統領は、ブラザビルで、第7回大湖地域国際会議(ICGLR)首脳会合を開催し、カビラ・コンゴ(民)大統領、カガメ・ルワンダ大統領、ロウレンソ・アンゴラ大統領、トゥアデラ中央アフリカ大統領、ルング・ザンビア大統領、及び13か国の外相が参加した。右首脳会合では、ブルンジの治安状況改善に伴う難民帰国の容易化、コンゴ(民)の内政・治安等について協議した。次回の首脳会合は2019年12月にスーダンで開催される予定。

イ 中部アフリカ経済通貨共同体加盟国の国籍保有者に対するコンゴ(共)査証免除

23日、ンブル内務・地方分権大臣は、中部アフリカ経済通貨共同体(CEMAC)加盟国(ガボン、中部アフリカ、カメルーン、赤道ギニア、チャド)の国籍保有者に対して、IC旅券を所有しており、コンゴ(共)の滞在期間が90日以内であれば、渡航査証を免除する旨発表した。以前はガボン、赤道ギニアのみであった。